

地域づくり×地域医療ミーティング

～鹿角市の医療の未来について
みんなで考えよう！～

1 市民アンケートの結果から

Q. どんな調査？

A. 政策評価の一環

各施策に対するニーズ（需要）を調査・把握

今後の政策推進に活用

市民の意見を市政に反映することを目的とする

- 実施期間：令和7年5月29日～6月13日
- 対象者：18歳から74歳までの鹿角市民 900人
- 回答者：437人（回答率48.6%）



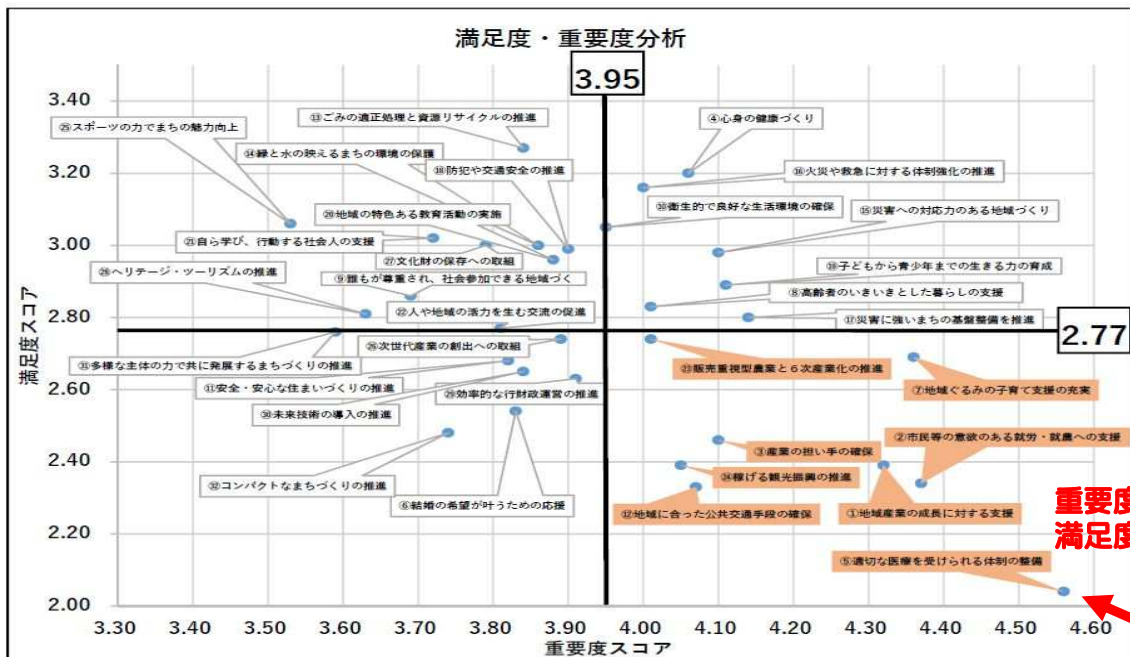
第7次鹿角市総合計画前期基本計画 の体系と第2期総合戦略との関係



将来都市像 ふるさを誇り 未来を拓くまち 鹿角



市民の満足度は・・・？



1 市民アンケートの結果から

- ・ 医師、看護師の確保を強く望む。(十和田 40代女性)
- ・ 鹿角で子どもを産める環境を作ってほしい。(八幡平 40代男性)
- ・ 医師確保。小児科をなんとかしてほしい。(八幡平 60代女性)
- ・ 医師の不足の解消には時間がかかると思います。しかし、待ってばかりは
いられないです。(八幡平60代女性)
- ・ 個人病院開設等に市として、もっと補助をして地域医師の確保をお願い
したい。(花輪 60代女性)
- ・ 病院機能問題についても徐々に受診する科が減ったり、市外まで通院し
なければならないことも考えておかなければならなくなるのが、高齢者
にとっては不安でなりません。健康年齢を維持し、病院とは無縁といえ
る高齢者を目指したいとは思っております。(尾去沢 70代女性) etc

1-1 R7.12.7 住民集会の意見

【医療や健康で困っていること・こうなれば安心】

大きく5つ

- ① 医療機関・診療体制に関すること
- ② 交通・通院手段に関すること
- ③ 救急医療に関すること
- ④ 受診時の経験や医師とのコミュニケーションに関すること
- ⑤ 相談窓口・情報提供に関すること



2 医療機関等アンケートの結果①

鹿角市内の**病院** 3
鹿角市内の**診療所** 10 } R7 アンケート調査を実施

①外来患者数は？

⇒減っている 75%

②収支は？

⇒現状赤字 41%

⇒将来赤字 50%

③後継者は？

⇒後継者がいない 37%

④事業継続は？

⇒廃業を考えている 25%

未回答もあった
が・・・

2 医療機関等アンケートの結果②

鹿角市内の**歯科診療所** 10 (ほか 病院内診療科目 1)

①患者数は？

⇒減っている 57%

②収支は？

⇒現状赤字 14%

⇒将来赤字 71%

③後継者は？

⇒後継者がいない 43%

④事業継続は？

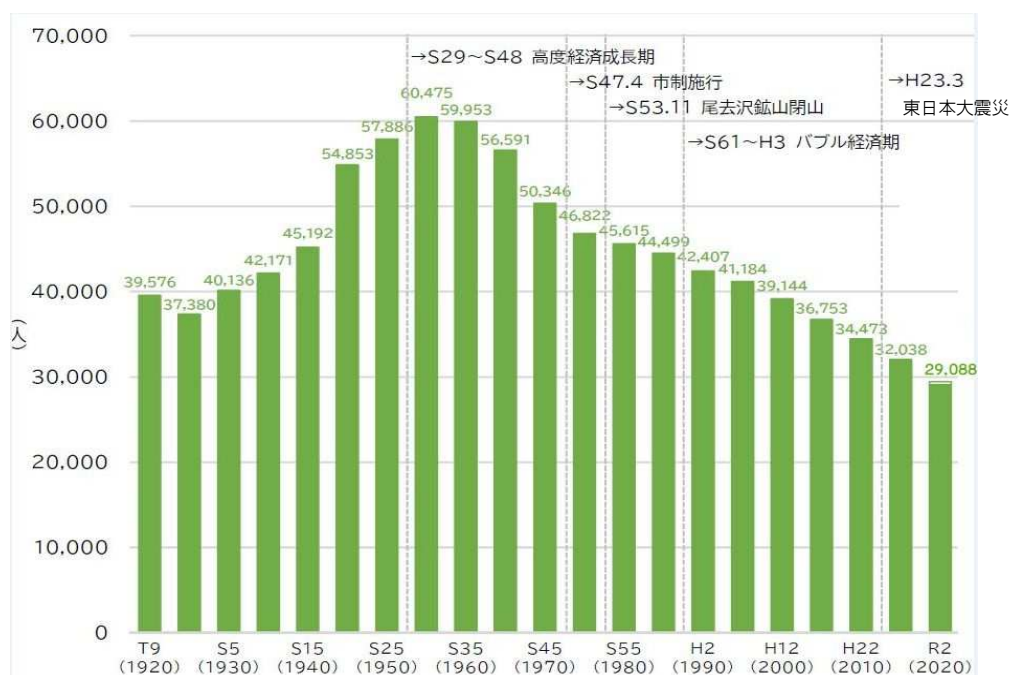
⇒廃業を考えている 43%

材料費が高騰
診療点数が低い
数をこなして挽回して
いるが患者減の予想…

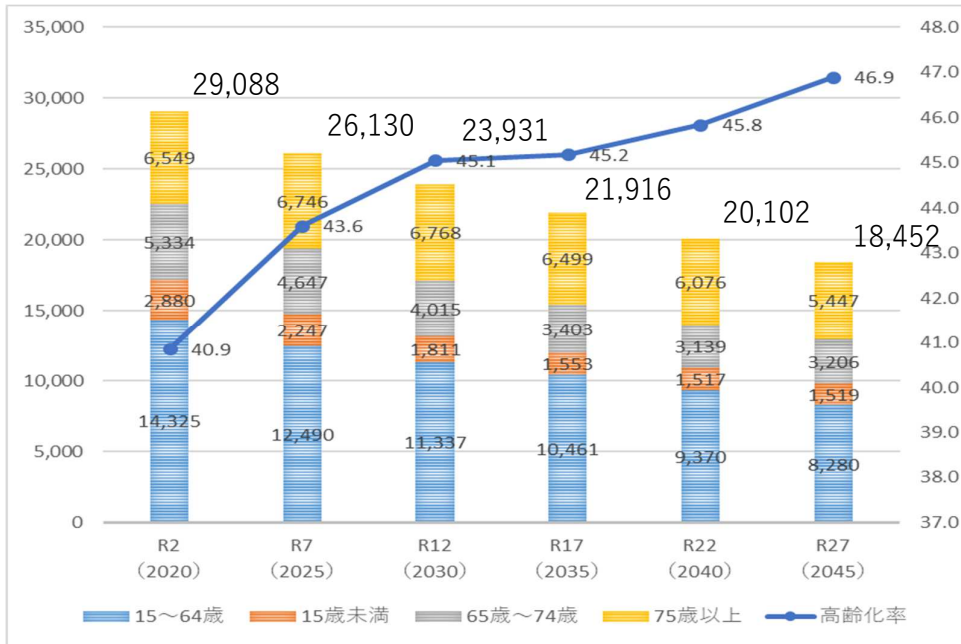
2 医療機関等アンケートの結果③自由記述

- ・人口減少による患者の減少（収益の減少、病床稼働率の低下）
- ・収支の悪化（診療報酬が横ばいの中、人件費・諸経費が高騰している）
- ・医療従事者の確保が困難（当直医師の確保が難しい、看護師や医療事務員を募集しても応募がない、欠員補充が容易ではない）
- ・設備の老朽化・機器の更新（収支の悪化により、更新が難しくなる）
- ・これまで医療が受けられることが普通だった市民には、医療が縮小して利便性が損なわれることについて実感が湧かず、説明は難しいだろう。
- ・むやみに医師、開業医を誘致するのではなく、人口規模に応じた計画のうえで行わないと共倒れになるリスクがある。
- ・在宅当番医制度は、開業医の廃業が進めば継続不能。 etc

3 データで見る鹿角 ①総人口の推移



3 データで見る鹿角 ②将来人口推計 (2045)

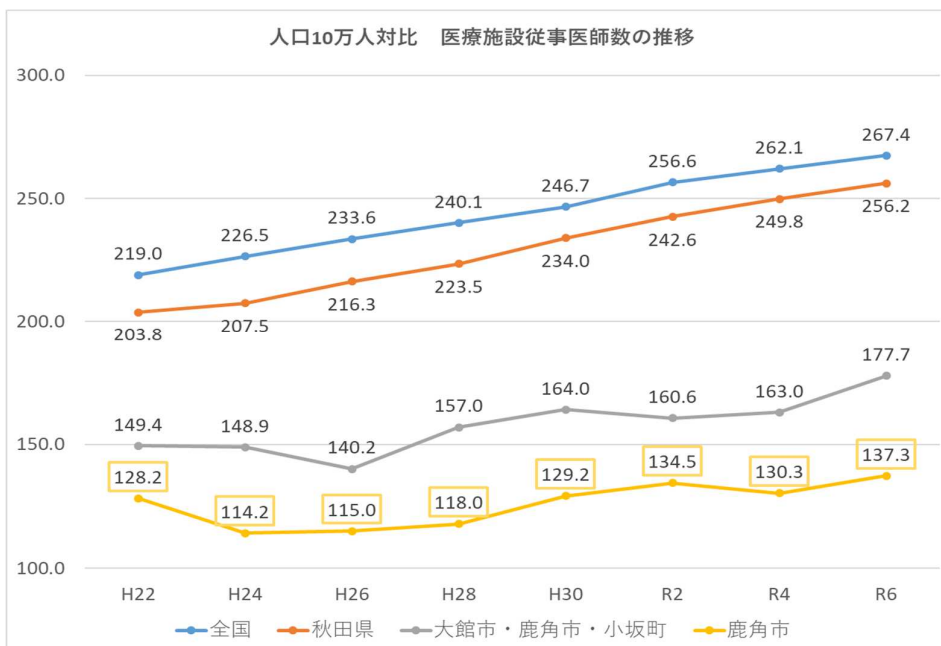


- ・総人口は減り続ける (R2比 ▲36.6%)
- ・生産年齢人口 (15~64歳) の減少が大きい (▲42%)
- ・高齢化率は上昇しつづける (40.9%⇒46.9%)
- ・75歳以上の減少幅は小さい (▲16.8%)



医療従事者のなり手は大きく減る。
医療を必要とする人も減る。

3 データで見る鹿角 ③-1医師数 (人口10万人あたり)

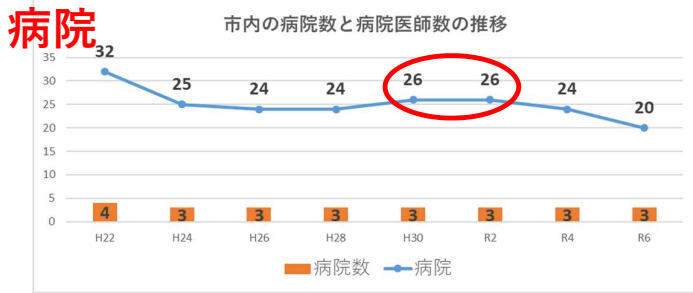


・全国平均、秋田県平均と比較し、かなり少ない

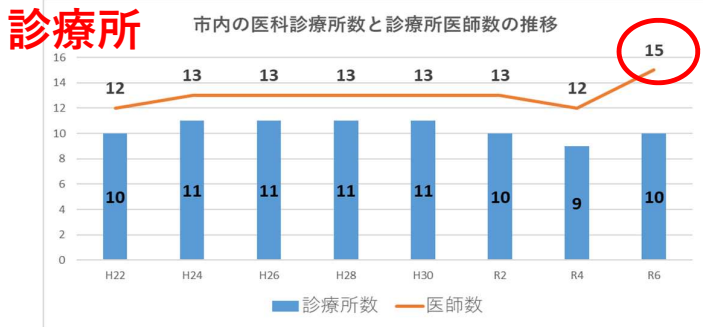
・大館・鹿角・小坂平均をも下回っている

・それでも一見、増えているように見える？

3 データで見る鹿角 ③-2 医師数（実数）

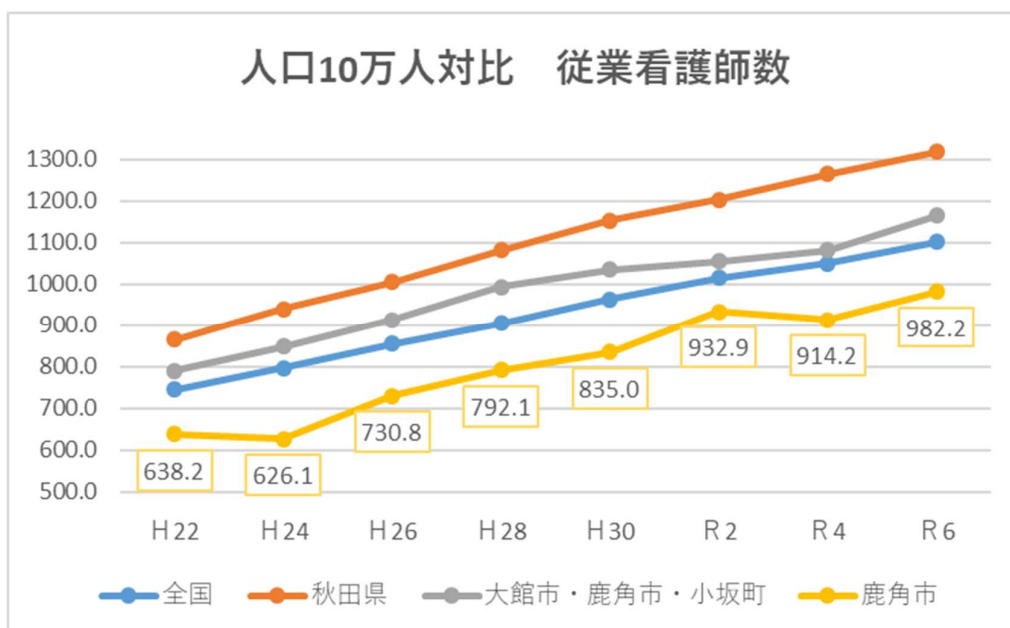


- ・市内3病院で働く医師数は減っている。
- ・少し増えたH30、R2は、かつの厚生病院の精神科の医師2名が在籍。



- ・市内開業医数は横ばいで踏みとどまっている。
- ・R5に市内にクリニック開業、医師3名増。
- ・ただし、前出の医療機関アンケートの結果から、今後の継続が危ぶまれている。

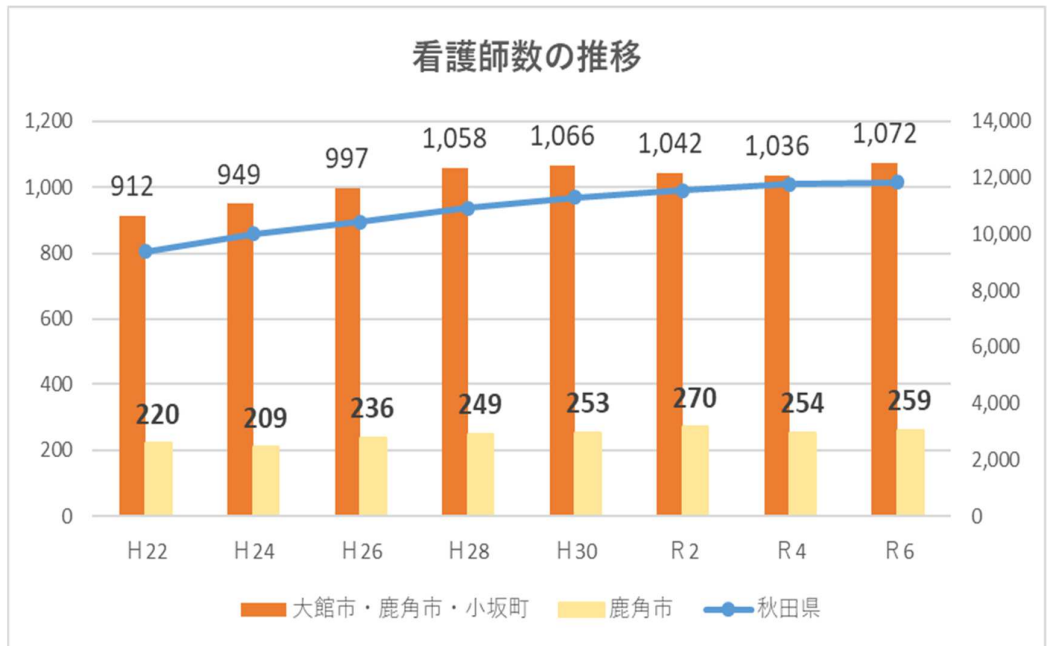
3 データで見る鹿角 ④-1 看護師数



(人口10万人当たり)

- ・医師数と同様、全国平均、秋田県平均、大館市・鹿角市・小坂町平均を下回る

3 データで見る鹿角 ④-2看護師数（実数）



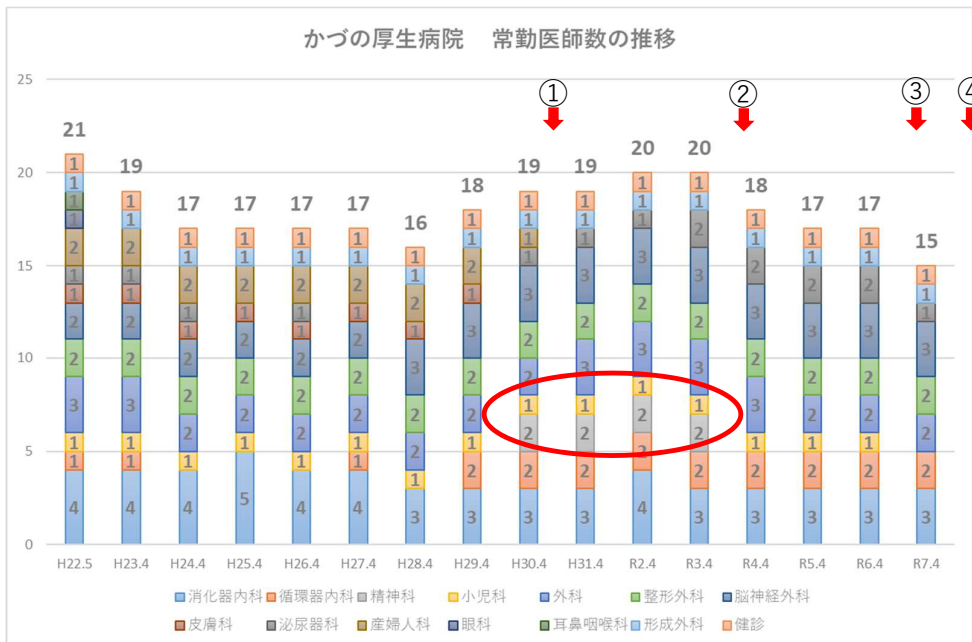
- ・ 医師に比較すれば、看護師数は微増
- ・ もともと足りていない

3 データで見る鹿角 ⑤鹿角で受けられる診療

	診療所	かづの厚生病院	大湯リハビリ温泉病院	鹿角中央病院
内科	★		●	●
消化器内科	★	●		●
循環器内科	★	●		
呼吸器内科	★	○		
神経内科		○	○	
精神科		○		
外科		●		
脳神経外科		○		
整形外科		●	○	
形成外科		●		
呼吸器外科		○		
リハビリテーション科		●	●	
皮膚科	★	○		
眼科	★	○		
耳鼻咽喉科	★	○		
泌尿器科		●		
小児科	★	○		
産婦人科	★	○		
歯科	★			●
歯科口腔外科	★			●

- ★は診療所あり
- は常勤医あり
- は非常勤医あり
- だけでは市内での入院治療が難しい
⇒市外医療機関へ

4 データで見るかつの厚生病院①医師数

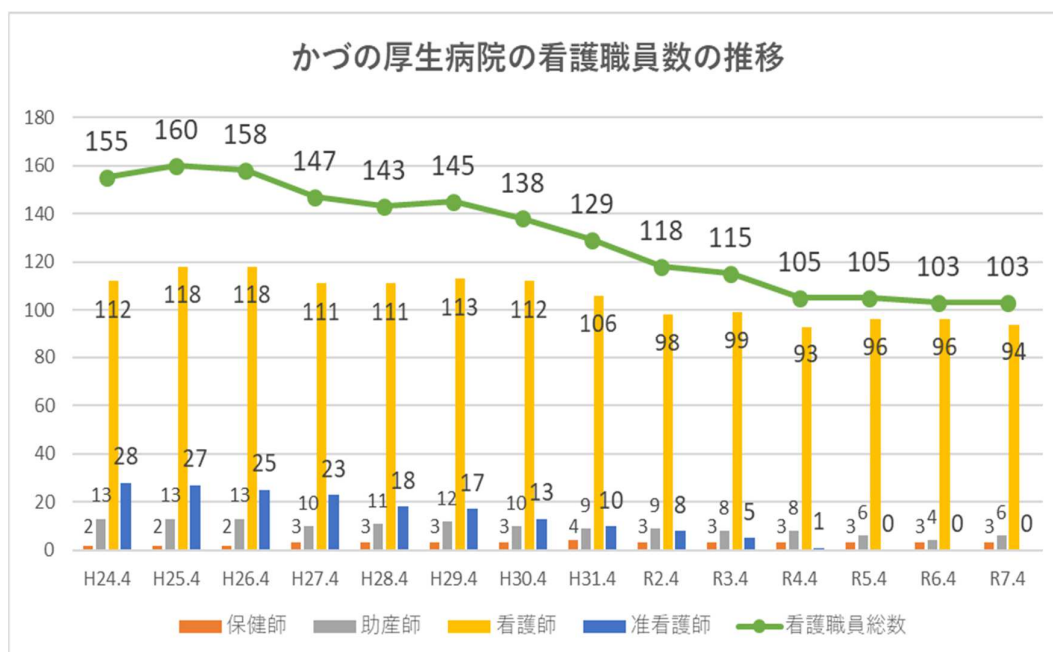


新病院開設当時 (H22)
21人⇒15人 (R7)

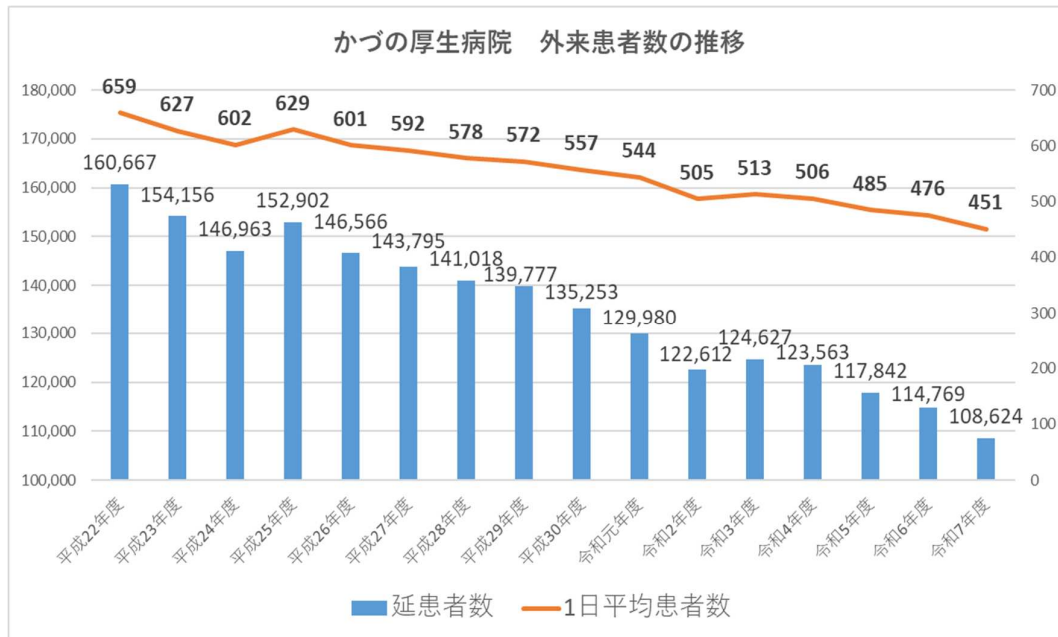
※R8~ 12人

- ①分娩機能、大館へ集約
- ②精神科医師 退職
- ③小児科、入院中止
- ④脳神経外科、入院中止

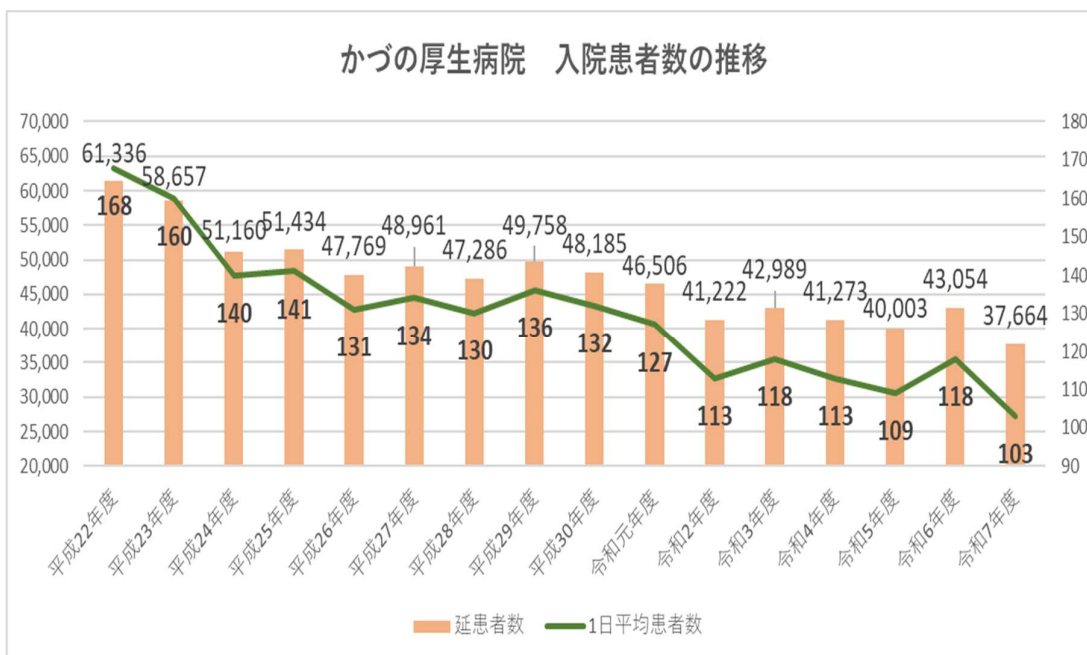
4 データで見るかつの厚生病院②看護師数



4 データで見るかづの厚生病院③外来患者数



4 データで見るかづの厚生病院④入院患者数



病床数も減少

H22 262床



R7 161床

4 データで見るかつの厚生病院 まとめ

(前提として…人口減少)

- ①常勤医師減少 ⇒ 診療の縮小 ⇒ 患者減少 ⇒ 収益減少
- ②看護師数減少 ⇒ 同上
- ③外来 } 患者数減少 ⇒ 収益も減少
- ④入院 }

しかし、維持管理経費は掛かる ⇒ 経営状況悪化

5 鹿角市はこれまで何を…？

(1) 医師確保対策

①医師修学資金の貸付

- ⇒ 将来、鹿角で医師として働いてくれる医学生に修学資金を貸付、鹿角市内で一定年数就業したら返済免除
- ⇒ 令和8年4月、第1号の医師誕生
- ⇒ 現在、4名が医師として研修中、4名が医大生

5 鹿角市はこれまで何を…？

(1) 医師確保対策

②岩手医科大学への寄附講座設置

⇒ 常勤医、非常勤医の派遣

⇒ 「医療職を志す中高生のつどい」の実施

5 鹿角市はこれまで何を…？

(2) あんしん医療推進事業

①在宅当番医制度

⇒ 平日の夜間、土曜の午後、日曜・祝日に、鹿角地域の開業医が交代で当番医を務め、一次救急を担う制度。

R7実績：1,554人が利用

5 鹿角市はこれまで何を…？

(2) あんしん医療推進事業

②当番薬局制度

⇒在宅当番医に合わせ、ゴールデンウィーク中と年末年始に
当番薬局最寄りの薬局を開局。

R7実績：179人が利用（10日間）

⇒R8からは日曜・祝日も開局

5 鹿角市はこれまで何を…？

(2) あんしん医療推進事業

③テレフォン病院24

⇒健康・医療・子育て・介護・メンタルヘルスに関する
電話相談を、医師・看護師等の医療専門職が24時間
365日無料で対応

⇒Web相談も実施

R7実績：入電件数607件 相談件数1,643件

5 鹿角市はこれまで何を…？

(3) かつの厚生病院支援事業

①かつの厚生病院支援補助金

⇒政策的医療（救急医療）の維持＋
不採算地区中核病院の維持

R7実績：52,878,000円

5 鹿角市はこれまで何を…？

(3) かつの厚生病院支援事業

②かつの厚生病院医師確保対策支援補助金

（（1）の医師確保対策を兼ねる）

⇒精神科、産婦人科、小児科（特殊領域）の機能充実及び
全診療科の常勤医師の負担軽減のための非常勤医師招聘
費用の支援

R7実績：27,715,000円

5 鹿角市はこれまで何を…？

(3) かつの厚生病院支援事業

③かつの厚生病院医療機器整備費補助金

(令和5年度)

⇒産婦人科外来で使用する超音波診断装置更新＋電子カルテシステム接続費用更新の支援

R5実績：1,934,000円

5 鹿角市はこれまで何を…？

(4) 医療機関開設資金支援事業

○市内に新規に診療所を開設しようとする医師を資金面で支援

⇒土地取得費、建物建設費、建物取得費、医療機器購入費
その他診療に必要な設備等

⇒常勤医師1名 上限2,000万円

⇒常勤医師2名以上 上限4,000万円

⇒開設後、3年間は常時雇用の看護師の人件費も一部助成

R1開設：けまない皮膚科

R5開設：ファミリークリニック

5 鹿角市はこれまで何を…？

(5) その他（市民への啓発、医療従事者研修支援等）

- ①市民町民公開講座の実施
- ②多職種連携のための教育事業実施
- ③地域医療連携システムの構築・実践
（テレカンファランス）

⇒R8は9/17！

etc

様々手を尽くしてきましたが、常勤医師は増えず、
地域の医療体制は縮小が続き、、、

6 秋田県はどう考えている？

令和6年3月策定「秋田県医療保健福祉計画」

⇒二次医療圏については、

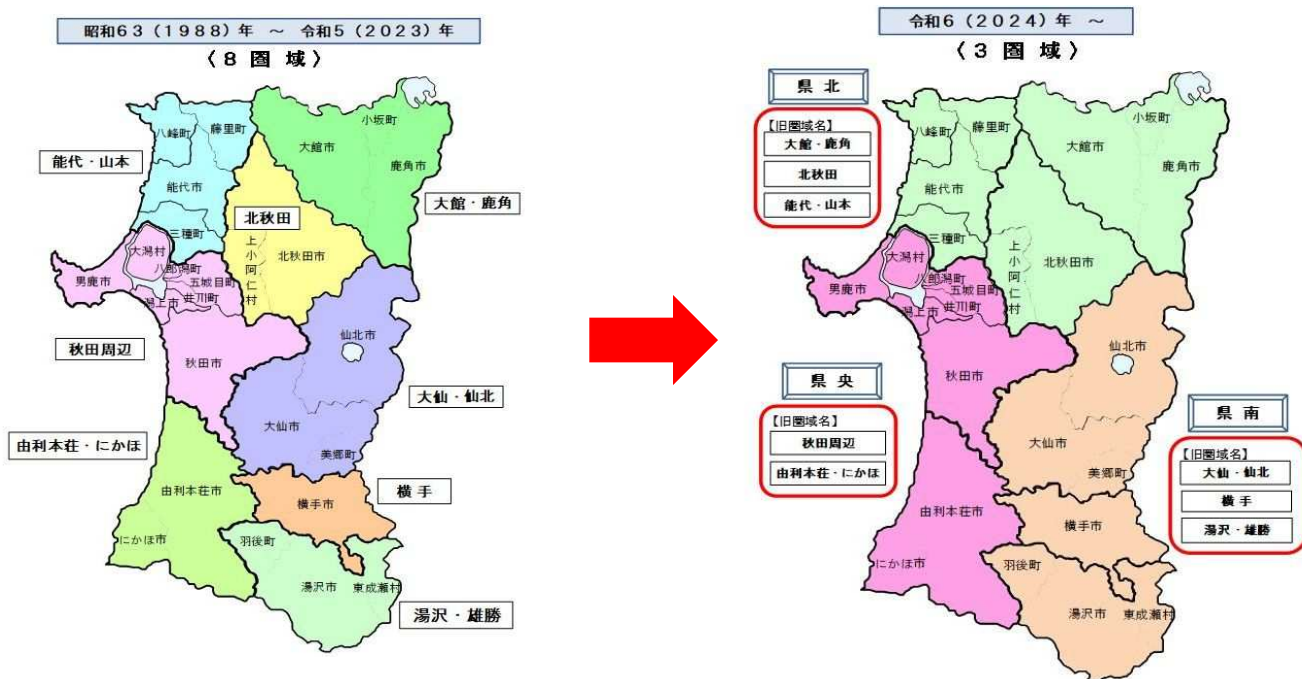
「これまでの8圏域から、**県北・県央・県南の3圏域に**」

※大館・鹿角から、北秋田・能代山本を含めた**県北1つに**

※二次医療圏とは？

⇒都道府県が医療計画で定める区域のうち、複数の市区町村を単位として、救急医療を含む一般的な入院治療までを地域内で完結させることを目的とした医療提供の区域

二次医療圏図



6 秋田県はどう考えている？

二次医療圏の見直し理由…

- ①国の見直し基準 ⇒ 人口規模20万人未満は見直しを
- ②将来の人口減少を考慮
⇒ 医師・医療従事者・患者減少を想定に入れて見直しを
(働き方改革、収支バランス、医師の手技維持…)
- ③秋田市への一極集中を避け、地域バランスの取れた医療提供体制を整備

⇒医療を守るためには、診療科の集約はある程度やむを得ない

7 今、医療ビジョンを策定する理由

- ・ かつの厚生病院の医療提供体制が縮小している
- ・ 市内の開業医も今後減っていく見込み
- ・ 市民に広がる不安



- ・ 市民に現状を知ってもらい、今後も医療を受け続けられる方法を一緒に考える
- ・ 市外の医療機関に委ねる部分も理解してもらう必要がある

テーマ「医療へのアクセスどうする？」

【市外の医療機関へのアクセス、こんな支援があったらいいな、を考えましょう】

例えばこんな視点で…

- ①定期的に通院する場合
- ②救急で一時的にアクセスした場合
- ③家庭で見守りが必要な家族がいる場合
- ④医療機関へ出向かなくともよい方法
- ⑤その他

①定期的に通院

例えば…鹿角市内で見てもらえる診療科がない！

例えば…高度な医療技術の治療、鹿角ではできないと言われた！

⇒毎月、近隣の大きな病院に通う必要が出てきた。

②救急で一時的にアクセス

例えば…家族が急病で、一緒に救急車に乗ったはいいけれど、
帰りはどうしたら？

例えば…夜間の救急搬送。帰れることになったがタクシーがない。

③家族で見守りが必要な家族がいる

例えば…小1の子どもが入院！でも保育園の子どもがいて、一人で夜遅くまで見てくれる人がいない！

例えば…母が入院、認知症の父を一人家に置いておけない！

④そもそも医療機関へ出向かずに医療にアクセスできない？

例えば…障害があるし車もない一人暮らし。病院に行けない！

例えば…大雪で近隣の大きな病院までたどりつけない。

例えば…自宅にいながらお医者さんに診てもらうのは無理？

テーマ「医療へのアクセスはどうする？」

【鹿角の医療に望むこと】

- ①今日の説明やワークショップを経て思う「鹿角の医療に望むこと」を**1つ**だけ、**ピンク**の付箋に書いて前の模造紙に貼りましょう
- ②今日の感想をグループ内で自由に話し合しましょう

最後に

- ふだんから健康に気を配りましょう
思いつくものは…？なんでも！
- 健診を受けましょう
- かかりつけ医を持ちましょう
(何か変わったことない？と聞かれて気軽に相談できるお医者さんを)
- テレフォン病院24をご利用ください！
☎0120-959-783 (きゅうでもいつでもください なやみ)